

『福音は、弱さと共にあずかるもの』

コリント一、9章19節-23節

選句 「わたしが福音に共にあずかる者となるためです。」 (23)

1、私どもの教会が祈りに覚え献金している団体の一つに「日本キリスト教海外医療協力会」(通常JOCs)があります。今、アジアに49名の看護師、医師、理学療法士、助産婦、奨学生を派遣しています。その地域の弱い人達と共に福音に与かる働きをワーカーの方たちはしています。

2、今日の聖書の箇所、パウロの言葉、「わたしは、だれに対しても自由なものですが、すべての人の奴隷になりました。できるだけ多くの人を得るためです。」(9:19)とあります。これは逆説ですが、この背景には、コリント教会の一部「知識人」信徒の教会内での「自由を標榜する」、身勝手な発言がありました。冷たい言葉を投げ掛けられたのは、決して社会的に強いの人達ではありませんでした。最下層に属し、また「奴隷」の身分に属しつつも、実直な信仰を生きていた信徒達です。「兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを思い起こしてみなさい。人間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけではありません」(1:26)と言われた教会の構成員です。

3、彼らは、日常食用に食べるお肉が、当時の習慣でアフロディティの神殿に備えられてそれが払い下げられて来たので、偶像礼拝に捧げられた肉は食べないと言ったのです。ところが、福音を知的に理解していた人は、「もともと偶像なんていうものはないのだ、天地にはただ1人の創造の神、イエスの父なる神がいますことははっきりしている、神殿のお肉をたべたからといって実際に汚されることはない、大体、神殿からの肉を食べないなんていうのは、信仰の知識がまだたりないのだ」「あなた方は自由が分かっていないのだ」とまで言いました。パウロはこれを8章と9章で戒めています。素朴な信仰の人達が、神の愛に繋がっているとすれば、その人達と繋がるために、敢えて「奴隷になろう」とまで逆説を語り、「頭だけの(強いと思っている)信徒」を戒めました。福音は、弱いものと共に与かるものなのです。パウロの言う「人を得るため」(ケルダイノ)は内容的には、共に神の与えるよろこびに繋がることを意味します。

4、「サンガイ・ジュネイ・コラギ」「みんなで生きるために」は岩村昇医師(1927-1980)が日本キリスト教海外医療協力会よりネパールに派遣されて医療活動を行った際、遠いところから病人を連れてくる村人から聞いた言葉です(参照『山の上にある病院』1965年)。彼は、何故ネパールに行くのに対して、「そこにキリストがいるから」と応えました。貧しく弱い人々と共に福音を受け取って行きたいと思います。